



私の街こまつ



THE KOMATSU CITY COUNCIL NEWS

議会だより

2024

11.1

NO.215

\\ Topic! //

令和5年度決算を認定

Contents

9月定例会	2	常任委員会 審査報告	15
市政Q&A	3	特別委員会 調査報告	18
予算決算常任委員会総括質疑	12	議決結果	20

撮影 小松大谷高等学校写真部 3年生 山本 奏さん



市議会HP



マチイロ

9月定例会

会期〈8月30日～9月30日〉

8月30日 開会

市長提出議案

予算案 2件

条例案 3件

その他議案 9件

9月9日 一般質問(7人)

10日 一般質問(5人)

11日 一般質問(5人)

18日 予算決算常任委員会
総括質疑

19日 各常任委員会(分科会)

20日

24日 各特別委員会

26日 予算決算常任委員会

30日 閉会

市長提出追加議案 4件

議員提出議案 1件

※議案等の採決結果(P20参照)

条例案等をチェック

市長から提出のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。(P16・17参照)

本会議の討論

橋本議員から市長提出議案第65号、第72号に対し、反対討論がありました。(P20参照)

議案第65号 小松市国民健康保険条例の一部を改正する条例について

議案第72号 令和5年度小松市歳入歳出決算の認定について

議員提出議案をチェック

議員から提出された議案のうち意見書については、可決された意見書を、内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。(賛否はP20)

議案第10号 ひきこもり支援に関する法整備を求める意見書

人事案件

教育委員会委員

おもて 表 幹也 氏 (向本折町)

公平委員会委員

ふじい 藤井 公祥 氏 (向本折町)

の任命・選任に同意しました。

決算をチェック

令和5年度決算については、予算決算常任委員会で審査されました。(P15・16参照)

令和5年度決算(歳出)

一般会計

515億9,937万円

特別会計

国民健康保険事業 95億1,904万円

介護保険事業 99億5,776万円

公債管理 107億6,314万円

産業団地事業 21億6,606万円

後期高齢者医療 17億7,163万円

企業会計

水道事業 22億2,900万円

下水道事業 39億2,068万円

小松市民病院事業 98億5,945万円



小松市イメージキャラクター
カブッキー

予算案をチェック

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。(P15参照)
主な提案内容を紹介します。

令和6年度9月補正予算

一般会計	補正額	4億3,341万円
特別会計	補正額	1億5,080万円
合 計	補正額	5億8,421万円

一般会計の累計

543億4,452万円

全会計の累計

1,132億8,992万円

大阪・関西万博出展費



【事業費】300万円

【内 容】来年開催の大阪・関西万博において北陸の伝統工芸を世界に発信するため、小松市「九谷焼」と南砺市「井波彫刻」の共同作品の制作や、その情報発信を行います。

本江地区住まいづくり推進費



【事業費】2億6,460万円

(R7～8年度債務負担行為額)
【内 容】市営住宅跡地で、子育て世帯対象の戸建て地域優良賃貸住宅を整備（余剰地は売却、民間事業者が宅地分譲）し、地域コミュニティの維持・活性化につなげます。

未来型図書館づくり推進費



【事業費】1,800万円

【内 容】未来型図書館の整備に伴い解体予定の公会堂、博物館、教育研究センターの解体実施設計及び施設周辺の樹木調査を行います。

一般質問 市政 Q & A

東京一極集中の是正について



きむら けんじ
木村 賢治
議員

一括質問



動画でチェック

◆梯川かわまちづくり構想

- Q** 梯川流域に住む地元議員として応援したい。どのような事業か。
- A** 水辺空間のにぎわいの創出や回遊性の向上を目指すもの。
- Q** 回遊性向上のためにGPSや人流データを活用して欲しい。
- A** 事業効果検証で活用を検討する。

◆サイバーセキュリティ対策

- Q** 市が扱う市民の個人情報適切に保護されているのか。
- A** 物理的にネットにつながらないようにし、流出を防止している。
- Q** 新しく契約したIoTサービスへの対策は。脆弱性への心配は。
- A** スマートシティ推進課が契約時に脆弱性が無い調整・検討している。

◆新しい55の具体策について

- Q** 若い市長が子育て政策に取り組み、高い達成率を誇ることは、それ自体が小松市の魅力であり、アピールすべきだ。

- A** 本市の先駆的な子育て施策を移住促進のために県内外でプロモーションし、市の認知度向上と市が選ばれることにつなげていく。

◆東京一極集中の是正について

- Q** 東京一極集中の是正を掲げた若い都知事候補の出現や全国知事会の決議により国民の関心が非常に高まった。これを機に小松市の住みやすさをアピールしてはどうか。
- A** 本市では、進学や就職時の人口動態を好転させるべく、公立小松大学の開学、企業誘致の推進や駅東地区複合ビルのオフィス誘致を進めている。並行して、出産・子育てサポート環境の強化も進め、本市が地方衰退の流れを克服し、地方発展のモデルとなるよう具体策を加速していきたいと考えている。小松がモデルとなって取り組み、トップランナーになっていくことが求められている。
- Q** 市は新幹線開業で東京からの人口流入を期待しているが、逆に東京への人口流出が加速する懸念があるのでは。
- A** 昨年に引き続き、本市の人口増減の要因のうち社会動態はプラスとなっている。

持続的発展と
まちづくり制度の変革



なかにし はじめ
中西 肇
議員

一括質問



動画でチェック

◆新しい小松をつくる具体策

Q 公約に掲げた55の具体策の達成状況について。

A 55の具体策の内、33事業は完全実施し、残りの22事業は一部実施・着手済みであり、全体の進捗率は87%である。事業完了に時間を要する事業をはじめ、国や県、関係者と連携して進める事業は、中長期的に取り組む。

◆ビジョンと都市デザイン

Q 都市デザインの位置付けと今後の展開について。

A 都市デザインは、最上位のまちづくり構想であり、これを具体的にイメージ化したものがビジョンである。未来の姿を描き、実現に向けて政策・施策を展開するバックキャストینگでまちづくりに取り組む。

◆まちづくり制度の見直し

Q 市街化調整区域集落は、人口減少と地域コミュニティの衰退が見られる。国府

校下の既存集落（12町内会）では、昭和50年から令和5年の50年間で人口は約1,300人減少、高齢化も進行し、近い将来限界集落になると危惧される。半世紀に及ぶ線引き制度が、集落の衰退、市勢停滞の一因であり、ふるさと小松の持続のためには、線引き制度の変革が必要である。

A 「線引き」の継続が適切である。今後、時代や社会情勢の変化を注視しながら、線引き制度の在り方も含め計画的なまちづくりを進める。

Q 開発許可等の基準に関する条例改正の概要と効果の見込は。

A 市街化調整区域の既存町内区域では、工場跡地等を活用した分譲住宅地の開発が可能となる。空き地の適正管理により、地域の安心・安全や景観の改善、未利用地の有効活用が図られることが期待される。

未来型図書館建設について



はしもと よねこ
橋本 米子
議員

一括質問



動画でチェック

◆令和6年能登半島地震と災害への備えについて

Q 能登半島地震から8か月、県にどう見直しを求めるのか。

A 県実施の地震被害想定調査の結果について、さらに詳細なエリアで、定量的な評価の早期提示を求めている。

Q 小松市地域防災計画の見直しはされているのか。

A 国の防災基本計画等に基づき検討を加え、見直しをしている。

Q 大規模災害に対し、指定避難所の備蓄量、環境の改善について。

A 避難所の環境整備や避難生活のニーズの多様化に柔軟に対応できるよう、取組の強化、充実を進める。

◆未来型図書館建設について

Q 未来型図書館において、必要とされる役割は。

A 本との出会いや読書を通じた市



令和6年度は基本計画が策定されます

民の学びや成長を支え、暮らしやまちを豊かにしていく役割を担う。

Q 令和6年度基本計画策定の主な内容は何か。

A 施設整備や運営の重要な方針となる基本計画。

Q 複合施設の管理運営、サービス計画の事業方式は。

A 官民連携手法の検討を重ねている。

◆IRいしかわ鉄道粟津駅の利用拡大策について

Q 粟津駅停車の本数を増やすべき。

A 利用者の増加が必要。小松駅－粟津駅間の新駅構想が仮に実現すれば、新たな移動需要が生まれるのではと期待している。

Q 粟津駅の乗降利用人数を増やすためにもエレベーターの設置を。

A IRいしかわへ働きかけていく。

「すべての人が安心して暮らせる共生のまちへ」について



さいとう かずみ
齋藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆安全・安心な暮らしを守るために

Q もしもの時のあんしんカードの配布について。

A 今後は、福祉サービス事業所等の協力を得て、さらなる普及に努める。認知度を高め、あらゆる機会を捉えて広く周知する。

Q 冊子「障がい福祉制度のごあんない」の内容の充実やスピード感ある発行を。

A 今年度は、9月中の発行を予定している。基幹相談支援センターの内容も盛り込み、障がいのある方が分かりやすく使いやすい、見やすい冊子となるように、内容の充実や工夫を凝らしていく。

◆障がいのある方への自立に向けた支援体制について

Q 余暇活動や社会参加についての支援と仕組みづくりについて。

A 障がいのある方が豊かな生活を営むためには、余暇活動や社会参加がとても重要であり、活動を楽しみ、積極的に社会参

加していくためには、障がいのある方々を理解し、寄り添い、支えることが必要となる。仕組みづくりについては、提案のあった、いきいきサロンやゆったりサロンも含め検討を進めていく。

◆共生社会の実現に向けて

Q 障がいのある方への理解と共感について。

A 本市では、障がいのある方が小中学校等で講師を務める障がい者ふれあい事業の実施や、福祉ふれあいフェスティバルの開催等、障がいに対する理解を深めるため、様々な取組を行っている。また、本年4月から民間事業者にも義務化された、障がいのある方への合理的配慮についても各種媒体を通じて理解促進を図っている。

Q 福祉ボランティアの推進について。

A 市民の誰もが互いに尊重し合い、困っている時には自然に助け合える、そうした優しい地域共生社会の実現に向けて、市民意識の醸成も含めてしっかりと取り組んでいく。

目標とするまちの将来像
やまちづくりの考え方



うめだ としかず
梅田 利和
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市都市デザインの改訂について

Q 2040年ビジョンとの整合性について。

A 都市デザインは、まさに本市の基本構想に当たる最上位計画で、2040年ビジョンとともに今後のまちづくりの羅針盤となるもの。ビジョンで策定した6つの都市像やまちづくりの柱となる好循環の考え方を反映させている。

Q 「世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ」を都市目標として設定した意図は。

A 国際空港と新幹線駅を有し、日本海側屈指の産業集積地である本市が、デジタル技術の進展で、よりボーダーレスとなる世界とのつながりを強め、そのポテンシャルを生かし、地方都市の発展をリードし続け、日本海側の拠点都市に成長するという思いを込めて設定した。

Q 人口目標10万人。重要指標として4項目掲げているがその意図と難易度は。

A 2030年以降、小松市の人口が10万人台を割り込むという推計がある。しかしながら、10万人都市という分かりやすいベンチマークを設定し、好循環のまちづくりによって、これを何とか実現させていこうと考えている。掲げた指標はいずれも高い目標であり、難易度が高いと認識している。

Q 小松市都市デザイン、2040年ビジョンにかける思いは。

A 空港と新幹線駅を有し、産業が集積、日本のよき自然と伝統が残る小松市であれば、ビジョンに近づくことで地方都市の衰退を克服し、東京一極集中の是正に寄与できると考えている。

市制100周年を迎える2040年においても、人口10万人都市であり続けるために、空港などの都市機能の拡充、さらなる産業創生や断トツの子育て政策、また教育改革などにも着手する一方で、ふるさと小松のよき資源を継承し、地方都市の発展に挑戦し続ける。

小松市民病院の本館 建て替えについて



むらなか ひろし
村中 洋
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市民病院の本館建て替えについて

Q 建設基本構想策定委員会のメンバー構成は。

A 医療関係者、学識経験者、市民代表、行政機関、病院職員から構成され、病院経営に見識と経験を有するアドバイザーも迎える。

Q 市医師会長は10年以内の建て替えを目指したいとしているが。

A 建設スケジュールは未定であるが、今年度策定の基本構想で検討する。

Q 市民や病院職員の意見を踏まえ、パブリックコメントなどで円滑な計画をするのか。

A 策定委員会・病院職員の意見の集約やパブリックコメントを実施。

◆小松市民センターの駐車場整備について

Q 公会堂の代替機能として、施設を同時に利用する場合の人数は。

A 最大利用人数は、約1,600人が見込まれる。

Q 駐車場整備で100台を見込んでいるが、同時利用で駐車が可能か。

A 最大利用人数を想定すると駐車場不足も考えられ、行事主催者側から相乗りや

近隣駐車場の利用について調整いただきたい。

Q 現在の駐車幅が2.3mでは狭い。大型バスの駐車スペースの確保は。

A 現在の駐車場は現状のままとし、整備する100台の駐車場は幅を2.5mとし、大型バスは事前連絡により乗用車のスペースを確保する。

◆建設業の経営健全化について

Q 労働力の安定確保や品質向上などから、債務負担行為や繰越制度を活用し、さらなる工事の平準化を。

A 年度末の工期の集中を避け、上半期の発注率目標70%に取組み、令和5年度から余裕期間制度も導入。

Q 工事書類の簡素化で働き方改革の推進は。

A 国・県では今年、工事書類スリム化ガイド等を策定。本市も来年度からの導入に向け検討している。

Q 建設現場に市職員が行かず、遠隔臨場での作業確認などの推進を。

A 令和5年度から実施体制を整え、試行要領を公開しており、今後も取組を推進する。

（株）コマツ創業者竹内明太郎物語、NHK朝ドラ、ぜひ映画・ドラマのロケ誘致を!!



かわさき じゅんじ
川崎 順次
議員

一括質問



動画でチェック

◆安全・安心の確保、どう市民の命を守っていくか

Q 全国各地で自然災害による被害が発生している。国民の命と生活を守る武道館1万人大会で、アルピニストの野口健さんは、「もし仮に日本が減じるとすれば戦争ではなく災害だ」と語った。自分の命を守るため、自助共助が必要ではないか。

A 共助では各町内会長等に、地区防災計画の作成や避難所運営訓練の実施をお願いしている。自助では、従来から自らの命は自ら守るという意識を市民の皆様を持っていただくよう努めており、広報9月号での備蓄呼びかけ、防災アプリ活用の周知をしている。

◆市民病院本館建て替えについて

Q 災害でも医療を止めないため、本館を免震建設にしたらどうか。災害等に強い病院を目指せ。

A 免震構造を含め構造形式の検証をし、建物の機能安全を確保していく。

◆上下水道管の耐震化について

Q 上下水道の耐震化をより一層進めよ。

A これまでも優先度、重要度を考慮し、耐震化を計画的に進めてきており、今後も持続可能な水インフラの整備を推進していく。

◆小松-仙台便の復活

Q 令和2年コロナで休止している小松-仙台便の再開を。

A 一日も早い定期便復活に向け、関係各所に働きかけていきたい。

◆映画やドラマのロケ誘致を!

Q 小松には魅力あるロケ地がたくさんある。レトロな栗津駅舎、遊泉寺銅山、（株）コマツ創業者竹内明太郎さん物語などいろいろな形が考えられる。NHK朝ドラなど撮影終了後には観光地として多くの人が訪れている。ぜひロケ誘致を。

A 竹内明太郎氏の出身地である高知県宿毛市と連携して、竹内明太郎氏を主人公とした、いわゆる朝ドラの誘致ができないかを考えており、その可能性を探っていきたい。市内には、ロケ地として適した場所が多数あり、ロケ地として選ばれるよう、各スポットの磨き上げを継続するとともに、広く発信し知名度を広げていきたい。

北陸新幹線小松駅開業から半年、改めて小松の「観光」を考える



よしもと しんいちろう
吉本 慎太郎
議員

一括質問

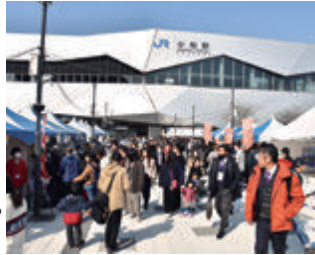


動画でチェック

◆北陸新幹線小松駅開業後の効果について

Q 本年3月16日の開業から半年、観光面において数字やデータで示される新幹線開業効果は。

A 小松駅周辺エリアの来訪者数は4月から8月において前年度比15%増。土産店の売上



開業初日、賑わう小松駅前
半年経過して今後は？

げも開業前の52%増となっている。

Q 小松市が現在発信している観光コースの実績と成果は。

A 多種多様な観光コンテンツから、観光事業者や観光客個人が各々のニーズを組み合わせ、魅力的な旅行プランを作っている。

Q 観光者のニーズがより細分化されている中で、総花的ではなく、ジャンル・世代に応じた、よりディープな観光コース・スポットの考案・提供が必要なのではないか。

A こまつ観光物産ネットワークでは、ホームページ内でモデルコースを20件紹介

するとともに、ヘルスツーリズムなどのツアー造成や商談会への参加を通じて誘客促進に取り組んでいる。

◆多文化共生の更なる推進について

Q 過去最高となる小松市在住の外国人、その総人数と国籍数は。

A 8月1日現在3,230人が外国籍の住民で、国籍は人口の多い順から、ブラジル、ベトナム、中国、インドネシアとなっており、計42か国の方が生活している。

Q 外国人居住者が直面する医療・学校等、様々な課題に対して、どう対応しているのか。

A 生活指導や初期的な日本語指導を一定期間集中的に実施する「日本語初期指導教室（稚松小学校内れいんぼーる一む）」を設置し支援している。

Q 地域コミュニティにおける共生社会を推進するために町内会単位、校下単位でのセミナーを開催し円滑な関係を構築すべきではないか。

A 関係団体と連携協力し、市全体の多文化共生の推進に取り組んでいく。

地域公共交通の再構築に向けて



なんとう よういち
南藤 陽一
議員

一括質問



動画でチェック

◆地域交通政策室の設置について

Q その目的と今後の取組は。

A 持続可能な公共交通体系の再構築を目指し、地域公共交通システムづくりの推進体制を強化する。

Q 今後開催されるセミナーやワークショップの内容とその狙いは。

A 地域公共交通コーディネーターの人材を育成し、セミナー等を通じて、新しい交通の在り方検討の素地をつくっていく。

◆自動運転バス・小松市ライドシェアについて

Q 確立に向けた今後のスケジュールは。

A 自動運転バスは、2025年度以降の全区間レベル4に向けてプロジェクトを推進。ライドシェアは、今年度中に運行データ一元管理システムを構築し、タクシー優先配車の仕組みづくりを進める。

Q 確立された場合、小松版Maasにおける位置づけと役割は。

A 多様な交通モードを組み合わせ、持続可能な公共交通体系を構築していく。

◆地域内フィーダー系統の強化について

Q 月津・日末自家用有償旅客運送を小松版Maasに組み入れて、国交省の補助メニューの対象となるように取り組むかどうか。

A まずは地域協議会の補助金の活用をお願いしたい。本格運行の際には、国庫補助金等の活用も進めていきたい。

Q 路線バス月津線を見直し、月津・日末自家用有償旅客運送を、IRいしかわ鉄道栗津駅に接続させる実証実験を行ってはどうか。

A 地域交通事業者、行政等が連携しながら今後の在り方を検討。

Q 地域公共交通の再構築に向けては、南北の幹線はIRいしかわ鉄道、東西の主要施設を結ぶ幹線は路線バス、地域内を細かく回るフィーダー系統はライドシェアと考えるが、本市の所見は。

A 同じ思いである。IRいしかわ鉄道を幹線とした体系の構築は、地域公共交通を再編する上で重要な方策であると考えている。

大倉岳高原スキー場のグリーンシーズン活用について



ふかた ひろとも
深田 博智
議員

一括質問



動画でチェック

◆現状と課題について

Q グリーンシーズン活用状況は。

A 星空観測会、大倉岳高原まつり、トレイルラン大会、パラグライダースクールなどが開催されている。

Q グリーンシーズン活用に向けた現状の取組は。

A グリーンシーズンにおける活用を見据え、昨年度ホットハウスのインターネット環境整備を実施。

Q グリーンシーズン活用に向けた課題は。

A スキー場に水道施設がなく、安定した水の確保が困難なこと、イノシシ、熊等の野生動物に遭遇する危険があること、希少種である猛禽類への配慮が必要であること、ホットハウスへの一般車両のアクセスの難しさ等が課題として挙げられる。

◆今後の取組について

Q 今後、グリーンシーズン利用促進に向けた改修は。

A まずは安全・安心なスキー場運営に必要な改修を優先的に行っていくことが重要。ただ、近年の積雪状況を踏まえると、グリーンシーズンの活用は重要なテーマであると捉えており、地元町内会や指定管理者等と検討する場を設けていきたい。

また、尾小屋地区の個性的価値を再構築し、持続する地域づくりを検討する尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化構想委員会においても、大倉岳高原スキー場の通年利用について議論していきたいと考えている。あわせて、グリーンシーズンにも活用することについて広く周知するため、情報発信の強化にも取り組んでいく。

さらにはグリーンシーズンの活用を進めている他のスキー場の調査を行うとともに、年間を通じた施設活用についてサウンディング型の市場調査を行い、柔軟かつ大胆な発想で今後の大倉岳高原スキー場の在り方を探っていきたい。

北陸新幹線小松駅開業後の観光資源の磨き上げ



かたやま しゅんじろう
片山 瞬次郎
議員

一問一答



動画でチェック

◆観光資源の磨き上げについて

Q 小松城の文化的価値をブラッシュアップする考えは。

A 整備予定の未来型図書館では、博物館や図書館が所蔵する小松城や城下町、町人文化の資料を生かし、その歴史や魅力を体験できる展示や企画を検討する。

Q 歴史的資源活用の観光まちづくりは。

A 観光交流センター「Komatsu九」などを拠点に、市民や民間団体・事業者と連携し、まちなかの賑わいづくりに取り組んでいく。

Q 食文化ツーリズムの推進対応は。

A 民間事業者による魅力的なコンテンツやプランの造成を期待し、様々な機会や媒体を通じた情報発信について連携していく。

◆HPVワクチン接種について

Q 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種の現状は。

A 令和6年7月末時点で、対象者5,502名のうち、1回目の接種を完了した方は2,282名（接種率41.5%）、2回目は2,045名（接種率37.2%）、3回目は1,717名（接種率31.2%）である。

Q 今後の検診率向上と男性の接種支援は。

A まずは定期接種の制度化が進むよう、国や県に働きかけていく。

◆特定空き家等の状況

Q 空き家数と空き室・空き地バンクの登録状況。

A 令和6年8月末現在、空き家の累計登録件数は599件、成約件数は557件、空き室の累計登録件数は139件、成約件数は137件、空き地の登録件数は5件、成約件数は1件である。

Q 空き家数と管理不全空家・特定空家の状況。

A 空き家件数は平成24年度1,504件、平成27年度2,077件、平成30年度2,218件、令和3年度2,011件と推移し、管理不全空家は今年度約20件の苦情相談があり、特定空家は現在14件ある。

◆老朽危険空き家対策について

Q 特定空き家に指定される前での空き家活用や除却への対応は。

A 補助制度の充実を図り、流通の拡大を推進していく。

ICT教育の推進と
キャッシュレス化と



よしだ ぶんご
吉柴 文悟
議員

一問一答



動画でチェック

◆小松市のキャッシュレス化とデジタル地域通貨

Q キャッシュレス決済の導入状況は。

A 平成29年から文化施設や市民課等の窓口でキャッシュレス決済を導入。市税や介護保険料の納付も対応しているが、高齢者対応や事務の効率化が課題。

Q デジタル地域通貨の現状は。

A 石川県では北國銀行が中心となり、「トチカ」というデジタル地域通貨が展開されている。珠洲市では地域ポイント「トチボ」が昨年導入されており、加盟店の手数料が低く、地域経済の活性化が期待されており、他の自治体でも導入が検討されている。地域通貨は地域内の消費喚起に有効であると考えられ、住民の利便性も勘案しながら研究したい。

◆小松市におけるICT教育の現状と課題

Q ICT教育の推進状況は。

A GIGAスクール構想により、小松市では全児童生徒に1人1台端末を配備しており、子供同士がクラウド上で調べたり、考えを発信したりするなど、子供主体の学び、探究的な学びを進めている。教員はAI型ドリル^{キュービナ} Qubenaや授業支援ソフトSKYMENUClassを活用している。また、不登校児童生徒への支援として、ステップルームでオンライン授業やICTを活用した学習が行われている。

Q ICT教育の課題と今後の展望は。

A コロナ禍を機にICT環境が急速に進んだが、端末の性能不足による起動遅延や教師の負担が指摘されている。ICT支援員が7人配置され、学校ごとのサポートを行っているが、さらに支援体制の強化が求められている。今後は地域と企業、教育現場が連携し、次世代を担う人材育成を進めていく必要がある。

水泳授業の民営化と国民
保護訓練(弾道ミサイル)



はまぐち じゅんや
濱口 淳也
議員

一問一答



動画でチェック

◆水泳授業の民営化

Q 水泳の授業を民間委託する場合、どのような利点があるか。

A 専門性の高いスタッフによる指導を受けることができる。また、屋内プールを想定しているので、天候に左右されず、1年間の中で計画的な水泳指導ができる。また、プール管理や水泳指導に係る学校の負担軽減などが考えられる。

Q 今、考えられている課題は。

A 南部地区には民間委託できるプールがなく、移動手段や安全確保が課題の一つである。そのほか、指導員の確保、また万一の事故の場合の責任の所在をどうするか。また、夏季休業中の水泳指導やプール開放なども考えられる。そして、コスト面が最大の課題と認識している。

民間委託については、前向きに検討するが、市内全校一斉ではなく、学校や保護者、地域の要望等を酌みながら取り組んでいきたい。

◆国民保護訓練(弾道ミサイル)

Q 現在、全国で国民保護法に基づいた訓練を行っている自治体はあるか。

A 昨年度は全国43自治体で行っている。

Q 石川県ではかほく市で行われたが、どのような訓練だったか。

A 令和5年8月に弾道ミサイルを想定した住民避難訓練を国と共同で行っている。避難行動としては、まず窓のカーテンを閉め、爆風によるガラスなどの飛散防止を図る。次に窓とは反対側に机を寄せ、机の下に身を隠し、その後、ミサイルが着弾した想定で安全確認が取れるまでの訓練であった。

Q 本市としてどのような訓練に取り組むのか。

A 市民の皆様に弾道ミサイルを想定した避難の基本的な行動を周知していきたい。さらに今年度は、こども園などで実施している避難訓練の中で弾道ミサイルを想定した避難行動も取り入れていただくよう、勉強会も含めて関係者と調整している。

地域の絆をつなぐ場づくりと
子供の学びの機会創出について



おかやま あきひろ
岡山 晃宏
議員

一問一答



動画でチェック

◆校下公民館活動交付金について

Q 令和5年度の決算額は。

A 485万4,000円。

Q 令和5、6年度の予算額は。

A 令和5年度が574万円。令和6年度が538万6,000円。

Q 6年度は予算が減っており、それに伴い校下公民館への助成も減っていると思うが、決算額をみると予算を減らす必要はないと思うが。

A 館長や主事と情報共有しながら、必要な予算が必要な活動に対してきちんと行くよう検討する。

◆子供の防災教育について

Q 一輪車を使った運搬リレーやボール運び競争など防災要素をスポーツに取り入れた防災スポーツを学校の運動会の種目に取り入れてはどうか。

A 以前は行っていたが、運動会の内容見直し等により、現在は行っていない。し

かし、体験を伴った防災学習は貴重な機会であるので、社会科見学として消防署で防災体験等を実施したり、放課後児童クラブにおいても防災出前講座を実施するなど、各機関が消防と連携して機会を設けている。

Q 2005年に実施された防災紙芝居大会を子供達の防災意識向上に向けて復活させてはどうか。

A 学校では社会科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などで防災に対する知識を得て、考えを深め、意識を高める機会がある。今後も防災教育を継続的に実施し、防災の重要性を指導していきたい。

◆子供のプログラミング教育について

Q 人材育成の観点から、子供だから市教委が担うだけでなく産業政策として部署の垣根を越えて子供にプログラミングに触れる機会を作っては。

A 高度な知見を有する民間事業者と連携し、まずは、サイエンスヒルズこまつの機能を活かして提供する教育コンテンツの検証と充実を進めていきたい。

板津地区体育館に隣接した場所に
運動公園(テニスコート)と
児童公園を



みやにし けんきち
宮西 健吉
議員

一問一答



動画でチェック

◆小松市民センターについて

Q 概要について。

A 昭和59年5月に開館し、集会施設やコミュニティ施設のほか、老人福祉施設として利用され、さらには北部児童センターを併設し、屋外に天然芝の多目的広場も備えている。

Q 当時補助金申請時に対象とした地域はどこか。

A 梯川より北、国道305号の西側に位置する地域、及び梯川より南、北陸自動車道より西側の安宅校下の地域を対象としている。

Q 市民センターのテニスコートを駐車場に整備する中、板津地区体育館に隣接した場所にテニスコートを、そして児童公園を整備できないか。そのための来年度調査費をつけてはどうか。

A 明峰駅周辺全体の環境整備の調査を実施していきたい。



板津地区体育館

◆山口釜屋から大島町地内を通り、県道25号金沢美川小松線に出る市道について

Q これまでの状況は。

A 令和3年6月に石川県議会議員、小松、能美市議会議員、両市関係町内から陳

情書が提出され、事業の調査・検討を進めている。

Q 今後の方針は。

A 地権者への説明や用地測量、交付金の要望・申請を行った上で、土質調査や実施設計等を行う予定。

◆能登半島地震での周辺宅地の液状化に対する要望書について

Q 現在の状況は。

A 大島町周辺の被災している家屋は合わせて7件ある。

◆庁舎内の設備保全管理について

Q 3階屋上の緑地帯について。

A 今年度予算化し、改修を予定している。

Q 駐輪場について。

A さび落としや塗装を施す等修繕する予定。今後、駐輪場の在り方について検討していく。

Q 外壁について。

A 定期点検の結果を参考に、計画的に修繕を行っていく予定。

急増する休日保育利用者、
保育士の負担軽減を！



きのした ひろゆき
木下 裕介
議員

一問一答



動画でチェック

◆公立こども園の休日保育の実情

- Q** 抱えている課題は何か。
- A** 今年度利用者が大幅に増えたため、業務での負担感が増している。
- Q** 利用者がこの4年で約8倍に増え、保育士の負担が増している。負担軽減策として私立と協力して休日保育をできないか。
- A** 弊害を整理し、本当に公立職員のみで従事が困難になった場合、共同保育の可否について協議する。

◆学校のタブレットと手狭な机

- Q** OSはウィンドウズだが、教師からは動作が遅く、使い勝手がよくないとの声を聞く。来年の更新時に操作しやすく、安価なグーグルクロームに変更してはどうか。
- A** 指導しやすく、効果的に学べるものを導入したい。
- Q** タブレットの故障の数と原因。
- A** 21年度は377件、22年度は669件、23年度は1,025件。原因の一番は落下。タブレットの導入で手狭な机が更に窮屈になり、故障の原因も落下が一番となっている。中学生からも学校の机が狭いと聞いており、より大きな機の導入を求める。
- A** 各学校の要望等を踏まえ、柔軟に検討を進めていきたい。

◆ウオームアップ週間について

- Q** 暑さの中での登下校や小中学校の半数が1日しか実施していない状況、更には教師や管理職からの声を踏まえ、廃止してはどうか。
- A** 今年の実施状況を検証し、夏休みの在り方も含めて検討したい。

◆プールの水流出について

- Q** 損害賠償の法的根拠は。
- A** 民法第709条及び民法第719条で、過去の同様の事例を参考に損害額の2分の1を請求した。
- Q** 再発防止策で具体が発表された。いつ予算化されるのか。
- A** 方向性が定まり次第予算化していく。

◆栗津駅舎の取得について

- Q** 周辺には大学や公園が立地し、浸水リスクも低く、価値がある。市が取得してはどうか。
- A** 総合的に考えていく必要がある。ただ、市役所南支所の行政サービス機能を栗津駅に移転することは本気で検討していきたい。

北陸新幹線小松開業後の観光動向と
令和6年能登半島地震の
消防活動について



よしむら のりあき
吉村 範明
議員

一問一答



動画でチェック

◆北陸新幹線小松開業後の関西・中京からの動向について

- Q** 関西・中京からの来松者の推移と交通手段は。
- A** 前年比、関西圏6%増、中京圏4%減。サンダーバードは、GW期間中10%減、お盆期間中8%増。しらさぎは、GW期間中49%減、お盆期間中40%減。
- Q** 借り上げてでも特急再開を望むが交通便利性を高めるための施策は。
- A** 一日も早い北陸新幹線全線整備に向けた方策検討が必要であり、関係自治体と連携して取組む。

◆消防活動での被災地への応援体制等について

- Q** 能登への応援内容は。
- A** 延べ115名の消防職員を派遣。
- Q** 消防職員の応援体制は。
- A** 県内では、石川県消防広域応援部隊として出動。

◆車両や資機材、応援隊の居住空間等について

- Q** 装備内容は。
- A** 車両常備の資機材や現場に応じた救助等に必要な追加資材など。
- Q** 隊の居住環境やサポートは。
- A** 女性専用スペースの確保が難しいが、隊員が工夫して対応。後方支援隊がサポートを行う。
- Q** 支援する車両の詳細は。
- A** 災害支援車を配備しており、平ボディの3.5トントラック。

◆多発する自然災害に備えて

- Q** 車両の震災以外の用途は。
- A** 悪天候の火災等での現場指揮本部としての活用など。
- Q** 支援等充実した車両が必要と思うが所見は。
- A** 必要資材を手積みしているが、一番に隊員の環境整備や体調管理に留意し、鋭意対応している。
- Q** 能力向上型車両を導入すべき。
- A** 車両の搭載機能や多様な活用方法など、全国的な情報収集を行い、精査していきたい。

予算決算常任委員会総括質疑

令和6年度9月補正予算

自民党こまつ



川崎順次 委員



動画でチェック

◆宿毛市交流事業費

Q 宿毛市と小松市との議会間交流の目的は。

A 議会に限らず、両市における一層の友好協力関係の発展を目的に、年内の姉妹都市締結を予定。

Q 宿毛市は、小松製作所創業者、竹内明太郎さんの出身地。宿毛市との交流は議会としても非常に大きなことであり、今後のさらなる発展、前向きな取組をどのように思うか。

A これまで産業界を中心に交流がなされており、今後、議会間の交流や市民団体など各分野における交流が深まることを期待している。

令和5年度決算

会 派 自 民



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆観光交流センター管理運営費、こまつまると観光物産推進費

Q 合わせて1億3,000万円余の予算から、カフェやアンテナショップ等の運営に使われているとのことだが、長期的な運営継続のためにも運営補助をできるだけ圧縮すべきと考えるがその方策は。

A 地域の多くの事業者の方に主体的に参画いただきながら、自主財源の確保と自立的な運営に向けた取組を支援していく。



東浩一 委員



動画でチェック

◆ふるさとこまつ応援寄附金返礼品等費

Q ふるさと納税の目標額は。

A 令和5年度の予算は3億円余であったが、寄附額

は2億3千万円余であった。

Q 本市の取組や意向は。

A ふるさと納税はさらなる強化が必要と考えている。本年度は3億円を目指し、直近で5億円、できれば10億円以上目指したい。現在、魅力ある返礼品の新規開発等で、今掲載の商品600点を年末に向け、400点追加し1,000点とする取組を行っている。

◆スマート物流実装推進費

Q ドローン配送の実用化に向けた体制づくりの活動実績、月別・用途別サービスの利用実績は。

A 昨年8月から本年8月末までの利用実績は、全体で339件で、月平均約30件の利用があった。用途別では、フードデリバリーサービスで121件、買い物代行サービスで29件となっている。ドローン配送は7回で、現在は陸送がメインとなっている。ドローン配送は、天候や着陸ポイントなどで一定の条件が必要となり、配送回数は伸び悩んでいる。

Q スマート物流において、大手物流メーカーとの連携とあるが利用実績は。

A 7月は534件、8月は435件の取り扱いがあった。今後、定期的な荷物配送の需要がある世帯やエリアを特定し、ドローン配送に置き換えることで省人化を図っていく予定。

Q 災害時のドローン活用、着陸ポイントの整備について。

A ドローン航路の事前確保により、災害時は即時対応でき、迅速なプッシュ型支援活動が可能となる。一方、着陸ポイントの増設には、地元住民の理解と協力が不可欠となる。今後、関連企業との連携調整などの支援を継続し、国、県において活用出来る支援策や補助メニューを事業者へ提供していきたい。

◆鳥獣害対策費

Q 近年、猿の被害が中山間地で増加しているが、猿被害への新たな防止支援策は考えられないか。

A 鳥獣被害防止総合対策交付金の活用その他、国の交付金で対応できない小規模な菜園の被害防止として、新たに電気柵や防獣ネットの購入助成を制度化していきたい。



表靖二 委員



動画でチェック

◆栗津駅周辺整備費

Q 内容及び今後のスケジュールは。

A 歩道橋や自由通路、ラウンドアバウトの整備等を実施。今年度は用地取得を行い、全体の完成は令和10年度末を目指している。

Q 栗津駅が民衆駅として人が集まる場所となるために、芦原温泉にあるような屋台村を駅周辺に設置しては。

A 自治体の先進事例を研究し、活用できる国や県の補助制度等を調査するとともに、地元の意向も考慮しながら今後検討。

◆市行造林費

Q 事業内容は。

A 枝打ちや利用間伐、付随する作業道の整備に要する業務委託費や森林保険料等。

Q 低炭素社会は国際的な共通課題となっている。市行造林事業の将来は。

A 森林は多目的機能を有する大切な資源として守っていく必要があることから、林業経営体に対する補助や林産組合への活動に対する交付金等の取組を行ってきたところである。今年度から、間伐事業で発生する枝等をバイオマス材料として有効活用するための取組に補助を行う。

Q 森林環境譲与税の交付金の活用について。

A 適正な森林を管理するための森林整備等に活用。

小松志士の会



木村賢治 委員



動画でチェック

◆未来教育推進基金積立金

Q GIGA端末更新にあたりGIGA第1期の総括を文書の形で保護者へ説明して欲しい。

A 何らかの形で保護者に通知したい。

Q GIGA第1期で、端末を安価に調達できる共同調達方式を選択しなかったのはなぜか。

A スムーズに単独で小回りが利く調達を進めるため。

Q これまでの端末の保管体制に問題はないか。空調の効いていない余裕教室の窓際で、充電をしているのを見たことがある。

A 学校に確認したい。

Q 児童生徒の個人情報や学習データは適切に管理されているか。

A 学習用と校務用のネットワークは切り離されており、学習用に個人情報は無い。本市では、外部の者が児童生徒から学習データを直接収集する運用を行っていない。

Q 子供達の未来を見据えて高いシェア率のウィンドウズを推薦するが。

A 様々な機能を比較し、児童生徒にとって使いやすい適切なものを選びたい。

Q 生成AIの教育現場への活用について市の見解は。

A 教員や児童生徒による生成AIの利用については、国の方針やパイロット校の事例等を見ながら環境整備を進める。例えば、英語学習用AIアプリのデモを実施し、教師や生徒の反応を見て導入を検討したい。



濱口淳也 委員



動画でチェック

◆令和5年度決算について

Q 平成21年の将来負担比率226.3%のときは、実質公債費比率は17.1%であった。それが令和3年118.8%のときに11.9%、令和4年112.3%のときは11.7%、令和5年に関しては102.1%で11.3%と、小松市は健全化に向かっていけると言えることができる。将来負担比率の低い自治体はどういう評価になるのか。

A 小松市は、全国の自治体の中では将来負担比率が高いほうではあるが、鉄道の連続立体交差、あるいは各種の公共施設も充実しているなど、公共インフラ整備により市民生活の利便性に寄与している部分も非常に大きいと考えている。

将来負担比率が低いことは、今後の市政運営に安心感をもたらすものであるが、一方、将来にわたる健全財政の堅持を前提として、社会情勢に合わせ求められる投資を行うことは必要なことだと考えている。

Q 令和5年度末の市債残高は。

A 令和5年度末において一般会計で614億円、全会計で1,097億円。増減については、一般会計は前年度比で19億円の減少、全会計では50億円減少している。令和3年度から今年度末までの4年間では、現時点で約120億円改善する見込みとなっている。

自民党こまつ



深田博智 委員



動画でチェック

◆地域連携型こども食堂支援費

Q 補助金申請が少ない理由は。

A 民間等ほかの支援制度の利用や、食品などの配布のみの団体は補助対象から外れること、補助金の申請手続きが煩雑と感じられていることなどが推察される。

Q 本事業を有効に活用いただくための取組は。

A 小松市こども&地域食堂ネットワーク協議会と連携し、さらなる制度周知と、補助金を活用した柔軟な運営方法の検討など、きめ細やかな対応に努めていきたい。



川崎順次 委員



動画でチェック

◆並行在来線運行支援費

Q IRいしかわに替わり、小松の乗降者数の増減は。

A コロナ禍で落ち込んだ分は少し戻ってきているが、それ以前までは戻っていないと推察する。

Q ポムポムプリンが市の応援隊長を務め、子供たちに人気。ラッピングした観光列車を運行させては。

A 並行在来線利用促進策の一つとして面白いアイデアであり、利用促進協議会の中で提案したい。

Q 仮称今江駅設置について、ポムポムプリンのデザイナーは今江町出身であり、今江駅がうってつけ。

A 今江駅をポムポム列車が走るのは非常に面白く、列車に愛着等を持ってもらえる有効な策であり、利用促進協議会に提案したい。

Q 今、世界的に漫画、アニメが非常に人気。小松市の子供たちに夢を与える意味で、小松市立高校にマンガ学科を設置できないか。

A 現在、漫画に特化した取組は実施していないが、既存教育課程の中で、知識や技術の基礎を習得できる環境を一層整えていきたい。

Q 完成予定の駅東地区複合ビルのオフィスに、漫画の制作会社を誘致できないか。

A 万が一の大雨等に対応した非常に強固なビルを目指して造られており、ビルの有効性や強みを話しつつ、漫画などの制作会社を誘致していきたい。

無 会 派



橋本米子 委員



動画でチェック

◆学校給食運営費

Q 民間委託の目的と評価について。

A 民間のノウハウにより、安心安全な給食の提供が目的。約95%の児童生徒が「おいしい」と回答。

Q 経費の縮減額と委託総人数は。

A 縮減額は令和3年度に約1,000万円、調理員は合計74人。

Q 直営校の今後の方針について。

A 正規職員の状況を見ながら、順次進めていく予定。

◆自治体ライドシェア運行費

Q 運行の経緯と開始から10日間の利用実績は。

A 北陸新幹線で本市を訪れた方や、能登半島地震二次避難者の方の移動確保の目的で開始。利用実績は50件。

Q 松東地区乗合タクシー型の重視を。

A 最適な交通モードを組み合わせることが重要。



片山瞬次郎 委員



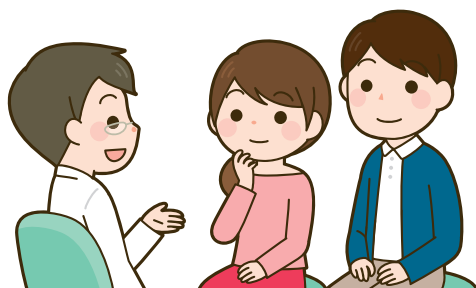
動画でチェック

◆不妊・不育治療支援費

Q 不妊治療支援の状況について。

A 2021年の国の調査では、不妊の検査や治療を受けた、または現在受けている夫婦の割合は約4.4組に1組。

本件の助成制度を活用して昨年度妊娠された方は申請者の53.4%にあたる71名。一般不妊治療は45名、45回の治療に対し125万円を、生殖補助医療は88名、193回の治療に対し1,687万円を助成。本市助成事業は、年齢制限を設けず保険適用外の治療も対象とし、手厚い支援となっている。



予算決算常任委員会

議案第61号 令和6年度小松市一般会計補正予算(第3号)について

■企業誘致推進費 (550千円)

小松駅東地区複合ビルオフィスフロアの募集に係る「自治体×企業マッチングイベント」の出展料です。

オフィスの誘致にあたっては、コンテンツ産業なども視野に入れ、小松市の更なるにぎわい創出につなげてほしいとの意見がありました。

議案第72号 令和5年度小松市歳入歳出決算の認定について

■こまつももしセンター運営費 (33,065千円)

FAQシステムを活用した市庁舎コールセンターの運営業務委託料です。令和5年度から3年間の長期継続契約を締結しており、令和5年度委託料は物価高や人件費高を受け、令和4年度より約6百万円増額したとのことです。昨年度の総電話受付件数は約4万2千件であり、そのうちの約1万件については、ももしセンターで問合せに対する回答を完了しており、職員の業務負担の軽減になっているとのことです。

現状の電話問合せでは、利用時間が平日の日中に限られることから、市民の利便性向上と経費削減を図るため、音声AIなどAI活用の検討を求めました。

■消防施設費のうち一般経費 (36,111千円)

消防本部庁舎や消防団拠点施設の施設修繕などの維持管理費、消防車両や機械器具などの維持管理費であり、これまでも消防の資機材導入のために、優先順位の高いものから計画的に予算要求されているとのことです。

現在、本市の災害支援車は、中消防署に1台配備されているとのことですが、自然災害が頻発化し、活動が長期化するケースなどを考慮して、災害時に必要となる新型車両等の調査を行い、十分な装備や規模の車両配備ができるよう検討を求めました。

また、消防団総合訓練について、今年度は台風の影響により中止となりましたが、その際にも各分団が練習してきたポンプ車操法の成果を発揮できる場を確保す

るなど、実施方法について、若い団員の意見も踏まえ、消防団とも協議の上、検討を求めました。

■心の電話相談費 (1,218千円)

主に、年間354日開設している心の電話相談の運用に関する相談員の謝金であり、令和5年度は2,455件の相談に対応しているとのことでした。

悩んでいる人に対して周りの人がサポートできる体制に持っていけるよう、より一層の啓発に取り組んでほしいとの意見がありました。

■訪問型サービス事業費 (12,561千円)

要支援者等が利用する訪問介護、生活援助のサービス給付です。そのうち地域サポートクラブによる生活援助については、地域の住民の支え合いの取組で、日常の買い物や掃除、ごみ出しなどの支援を行うものです。利用者は約100人、協力会員のサポーターは128人とのことです。

地域にサポートできる方がいるということは、とても良いことであり強い地域になると思うので、少なくとも1つの町に必ず1人2人はいるという位の高い目標を持って、サポーターの拡大に努めてほしいとの意見がありました。

■福祉ボランティア推進費 (872千円)

ボランティアグループ連絡協議会及び登録団体の活動を支援するため、助成しているものです。登録団体は、独居高齢者向けや一般者向けのボランティアグループ・サークル等9団体あり、各々活動しているとのことです。

ボランティア団体には、障害のある方に対して活動を行う上で、障害の特性等を学ぶための研修をしてほしいとの意見がありました。

■地域連携型こども食堂支援費 (650千円)

令和5年度の新規事業で、地域と連携して活動することも食堂の実施に係る経費の補助制度です。開設及び運営に係る経費について、食材料費のほか、消耗品費や燃料費、使用料、損害保険料、備品購入費などを対象とし、20万円の範囲であれば全額を補助するものです。

こども食堂が、その取組に必要としている補助を受け、地域に根差した活動が継続していけるよう、また各団体の個性を尊重した、より柔軟できめ細やかな対応を望む声がありました。

■学校給食運営費（260,931千円）

小中学校における学校給食調理業務を平成27年度から民間委託しているものです。令和5年度については、4年度に比べて新たに2校の民間委託を行ったものです。

一部の委員から、学校給食調理業務の民間委託に反対する意見がありました。

■未来教育推進基金積立金（74,005千円）

年額4,000万円については、GIGAスクール推進のための学習用タブレットの更新を見据え、購入費用の一部を基金として5年間分、また、年額3,400万円については、児童生徒用デジタル教材を継続的に利用するため、それぞれ積立てするものです。

GIGA第2期の端末の購入については、現在使用しているWindowsに囚われず、いろいろな端末・OSの中から児童生徒にとってより適切なものを選定することを求めました。

■市立高校活性化推進費（3,608千円）

主なものとして、美術の特別講師である洋画家への謝金のほか、AI型学習アプリや授業支援アプリの使用料です。

市立高校の魅力を更に高めるため、漫画やイラスト等特色ある学科を設置することや、人気キャラクターのデザイナーとのタイアップ授業等、新たな取組を検討してほしいとの意見がありました。

■九谷焼ブランド推進費（27,711千円）

能美市との連携事業である九谷焼の芸術祭「KUTANISM（クタニズム）」の開催や地域おこし協力隊による九谷焼の振興などに係る費用です。

今後は、能美市に加え、赤絵に力を入れている加賀市も交えて、3市で九谷焼の振興に力をいれてほしいとの意見がありました。

■定住促進費（69,486千円）

小松市への定住を図ることを目的に、一定の条件の下、住宅を新築や購入される方などに対し交付する奨励金や補助金です。

近年の建築費の高騰に対応するため、補助額を上げるべきではないかとの意見がありました。また、財源の一部が国からの交付金であるため、交付金額の更なる増額を国に強く要望すべきであるとの意見がありました。

■農業者物価高騰対策支援費（8,217千円）

肥料高騰対策に対する支援費です。

ガソリン代を始めとする様々な物価の高騰により、農業者は厳しい状況が続いているため、来期の春肥に対する補助を強く期待しているとの意見がありました。

■グリーンセンター管理運営費（424,622千円）

及びリサイクルセンター・最終処分場管理運営費（221,283千円）

エコロジーパークこまつの管理運営委託に係る費用です。

現在、エコロジーパークこまつへのごみの持込は月曜日から土曜日ですが、利用者の利便性を考慮し、また近隣自治体は日曜日に運営しているところも多くあることから、小松市も日曜日に運営する日を設けてほしいとの意見がありました。

その他として、打木町で栽培しているみょうこう柿について、とても素晴らしく、全国的な販売が期待できるものなので、栽培本数を増やすことや商品開発の支援などに対し予算をつけ、全面的に支援すべきとの意見がありました。

議案第15号 健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

令和5年度決算に基づく健全化判断比率は、実質公債費比率11.3%、将来負担比率102.1%と、前年度より各々0.4ポイント、10.2ポイント改善しているとのこと。また、公営企業会計の指標となる資金不足比率は、いずれの会計においても資金不足がないため、該当なしとの報告がありました。

令和5年度決算については、実質収支黒字額の増加や基金残高の増加、全会計における市債残高の前年度比約50億円減少など、良好な財政状況であり、今後も引き続き、明るくにぎやかなまちづくりのため、次の時代の成長に向けた投資も行いながら、健全な財政運営に努めてほしいとの意見がありました。

総務企画常任委員会

■報告第17号 地方独立行政法人の中期目標に係る業務実績に関する評価結果の報告について

公立小松大学の平成30年度から令和5年度までの6年間ににおける全体評価はA評価と、5段階のうち上から2番目の評価であり、中期目標を達成できているという評価でした。就職内定率100%を継続して達成しており、就

職希望者の約5割が石川県内に就職するなど地方創生に寄与するとともに、国家試験合格率が全国平均を大きく上回る水準で推移したことなどが評価されたとのことでした。

また、地震や物価高の影響を受けた学生への経済的支援など、学習機会の確保に向けた取組や、大学院開設による教育環境の整備についても評価されているとのことでした。

今後も地元を始めとする企業への着実な就職を期待する意見や、大学・大学院とも卒業生を輩出して数年が経過したこれからが大切であり、公立小松大学としての評価が確立していくことを期待する意見がありました。

■未来型図書館等複合施設の基本計画策定について

これまでの基本構想及び事業方針を踏まえ、リビングラボでの市民との対話や、有識者で構成するアドバイザリーボードからの助言、民間事業者との個別対話等も実施しながら、基本計画の策定に取り組んでおり、今回、未来型図書館の核となる図書館機能と想定する事業範囲についての考え方を整理し、方向性を取りまとめたものです。

知の集積機能としての図書館機能については、面積約4,400㎡、蔵書数は約35万冊、閲覧席は約360席を想定しており、ソファなどのくつろげる閲覧席の設置などにより、利用者が長時間滞在したくなるような空間を目指すとのことでした。また、テーマ配架については、新しい発見や想像力を沸き立たせる構成を行い、全体をテーマ配架で配置することを基本とし、小松らしい特色ある配架の実現を検討しているとのことでした。

引き続きリビングラボを通じて、多くの意見を取り入れて進めてほしいという意見や、他の図書館では建物自体を見に来る来館者も多いという視点を踏まえながら、高い来館者数の目標を掲げて計画を積み上げていってほしいとの意見がありました。

福祉文教常任委員会

■小松市民病院建設基本構想策定委員会の開催状況について

委員会の目的として、安全・安心で持続可能な医療を提供するため、本館建替えに係る基本構想を策定するものです。構想の策定にあたっては、医療需要の推移や地域連携のあり方など病院の内部・外部環境を分析して、新病院建設のコンセプト及び主な役割・機能を検討、検証した上で、新病院の施設整備方針を定め、事業費及び建設10年後までの収支計画などを策定するとのことでした。

将来の病床数を検討する際には、しっかりと検証したうえで適正な病床数確保を求める意見がありました。

■令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

市内の小学6年生（国語・算数）と中学3年生（国語・数学）を対象に実施された調査の結果が報告されました。県との比較では全ての教科において同程度との結果でしたが、全国的に見ると小学校の算数においては大きく上回り、他の小中の教科においても上回るという結果であったとのことでした。

今後は、説明をしたり意味を読み取って他者に伝えたりすることが課題であるため、授業の中でそのような課題に取り組んでいくとのことでした。また、学習活動の工夫や学校間の差がないように職員の指導力向上にも努めていくとのことでした。

小学6年生の課題として、正しい漢字を書くことが挙げられていることから、親子で漢字検定に取り組むなど、家庭教育の中でも保護者に関心を持ってもらうような取組を求める意見がありました。

経済建設常任委員会

■石川労働局（ハローワーク）との雇用対策協定について

石川労働局との雇用対策協定は、全国ネットワークで職業紹介・雇用保険・雇用対策を一体的に行う労働局と、地域の実情に応じて様々な雇用対策などを行う市がそれぞれの役割を果たすとともに、連携して雇用対策に取り組むことによる相乗効果が発揮されることや、景気変動などによる雇用情勢の変化などに柔軟に対応することを目的とするものです。具体的な協定項目は現在検討中とのことですが、市内企業の人材確保や女性・障がい者の活躍推進などを想定しているとのことでした。

協定項目に対し、アクティブシニアの活躍推進についても項目に追加してほしいとの意見がありました。

■こまつ環境エコフェスティバルについて

幅広い年齢層の方に「環境」について理解を深め、考えていただく機会を創出することを目的にサイエンスヒルズこまつで開催されるものであり、体験型ブースの設置や美化活動を行う団体の表彰などが行われるとのことでした。

会場で展示される電気自動車について、災害時などに蓄電池として活用できる性能もあることから、実演展示によるPRをしてはどうかとの意見がありました。

特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策 特別委員会

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点で小松基地における訓練計画はないとのことですが、訓練計画については、速やかに情報提供するように求めました。

■国の令和7年度概算要求について

防衛省が財務省に対し行った令和7年度概算要求が公表されており、基地周辺対策経費は、令和7年度概算要求額1,489億円で、前年度に対し8.7%の伸びとの報告がありました。

小松基地関連では、F-35Aの取得について、令和7年度に4機、令和8年度に8機、令和9年度に8機、令和10年度に8機、令和11年度に8機配備する予定とのことでした。

■告示後住宅の住宅防音工事について

F-35Aの1個目飛行隊の配備による影響も勘案した上で、令和8年度に第一種区域の見直しを行う考えが示されています。それに併せた施策として、うるささ指数が85W以上の区域内に所在する告示後住宅の住宅防音工事を実施しているところですが、本工事に一定の進捗があったため、現在の告示後10年間までの対象範囲を20年間に拡大するものです。

住宅防音工事の見直しや対象範囲の拡大などがされている中、騒音訴訟原告団が国に対して訴訟を行うことに対して疑問があるとの意見や、住宅防音工事ははじめ、障害防止、騒音防止、道路改修など防衛施設周辺の生活環境などの整備について、今後とも予算確保の要望に努めていくよう求める意見がありました。

また、近年ロシアの領空侵犯や中国の領海侵犯、北朝鮮のミサイル発射実験などの脅威が懸念されるところであり、これらの行為は、わが国に対する暴挙であり、許すことは出来ないものであります。小松基地を抱える小松市民の安全・安心を守る観点からも、国に対してはロシアや中国、北朝鮮に向け、さらに強い態度を持った対応を求めるとの意見が出されました。

■航空プラザについて

航空プラザの利用状況について、まず令和6年度8月

末の来館者数は昨年度に比べ微増の約9万9千人でした。特に夏休み期間中の来館者数は、昨年度に比べ7%増の約3万8千人であり、クイズラリーや小松空港・航空プラザスタンプラリーなどの催しを開催したとのことでした。今後も来場者の満足度向上に努め、多くの来場者を楽しんで頂けるよう努力していくとのことでした。

また、施設改修については、1階展示場の監視カメラの設備更新工事を実施予定で、現在工事着手に向けて準備を進めているとのことでした。

今後、防衛省や県などと協議してF-35Aの取得に伴い、F-15が退機するタイミングで、航空プラザにF-15を展示できないか検討することや、子供たちがパイロットや整備に憧れを抱いてもらえるよう工夫できないかとの意見がありました。

公共施設マネジメント検討 特別委員会

■未来型図書館等複合施設の基本計画策定について

今年度末までに策定予定の基本計画について、市民や民間事業者との対話、有識者からの助言により、図書館機能や想定する事業範囲の考え方等の方向性について説明がありました。

未来型図書館は、施設全体が開放的な空間となるよう配慮し、利用者が長く滞在したくなるような空間を目指す、蔵書は新しい発見や想像力を沸き立たせるテーマ配架を基本とし、小松ならではの特色あるテーマを設ける、閉架書庫についても一部を公開する、事業の進め方としては、民間の技術やノウハウを活かした施設整備やコスト縮減が期待できるため、官民連携手法が効果的と考えている、令和7年度には設計から運営までを一括発注し、整備事業に着手したい、とのことでありました。

運営が民間企業となることにより職員の配置をどうするのか、限られたスペースの中でこれまでの機能をうまく集約する設計をしてほしい、小松市らしさがキラッと光る設計に期待する、などの意見が出されました。



議会の活動を紹介します

小松市議会ハラスメント防止研修



開催日 令和6年7月2日(火)

小松市議会ではハラスメント防止研修を実施し、ハラスメントの基礎知識や具体的な事例、法的な背景について講師の方から解説をいただきました。セクハラやパワハラ、マタハラなど、無意識のうちにハラスメントを行ってしまう危険性についても説明があり、近年の人権意識の高まりや多様な価値観を理解することの重要性や、適切な指導方法、アンガーマネジメントの必要性について学びました。

コマツ栗津工場視察



開催日 令和6年7月12日(金)

平成26年に新築された建設機械組立工場は、総面積31,900㎡に全面地下ピット構造の巨大な建屋で、一度に何種類もの建設機械が同時に組み立てられていました。夏の暑い日ではありましたが、整備された空調によって快適に作業が行われ、ダントツの環境性能と生産性をあわせ持つ未来を見据えた次世代組立工場でありました。今後も更なる生産性向上に努め、小松の産業をけん引していただきたいと思います。

小松市民スポーツ大会



開催日 令和6年7月21日(日)

第76回小松市民スポーツ大会が、自衛隊を含めた全26校下の多くの市民の参加のもと開催され、開会式に参加いたしました。同大会は夢、感動を与えるスポーツを推進し、「スポーツをする、観る、支える」すべての市民が、仲間とともに様々なスポーツを楽しみ、健康を増進し、生きがいを感じ、絆を深めることができる“豊かなスポーツライフ”を目指しています。本年度は第一校下が男女ともにアベック優勝を決めました。

小松基地航空祭



開催日 令和6年9月23日(月)

令和6年度小松基地航空祭が開催され、基地内は飛行展示やブルーインパルス飛行等もあり、約8万2千人の多くの来場者がありました。9月21日発生の能登地方の大雨対応による災害派遣のため、内容に一部変更はありましたが、災害救助活動を行う自衛隊の皆様には深い敬意と感謝を表します。多くの小松市議会議員も航空祭に参加し、小松市との共存共栄を基として、小松基地に対する理解を更に深める機会となりました。

行政視察報告

小松基地・空港対策 特別委員会

視察先 青森県三沢市、宮城県仙台市
期間 令和6年7月23日(火)～25日(木)

視察項目

- 【三沢市】①三沢基地の概要について
- 【仙台市】②仙台空港の民営化に伴う取組について
- ③松島基地の概要について

公共施設 マネジメント検討 特別委員会

視察先 新潟県三条市、長岡市
期間 令和6年7月4日(木)～5日(金)

視察場所

- 【三条市】①図書館等複合施設「まちやま」
- 【長岡市】②アオーレ長岡、ミライエ長岡

9月定例会の議決結果

■全会一致で議決された議案

	議案名	議決結果
予算案 (2件)	第61号 令和6年度小松市一般会計補正予算(第3号)	可決
	第62号 令和6年度小松市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	//
条例案 (2件)	第63号 小松市開発許可等の基準に関する条例の一部を改正する条例について	//
	第64号 小松市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について	//
その他議案 (8件)	第66号 小松市都市デザインについて	//
	第67号 事務の相互委託の廃止について	//
	第68号 財産の取得について	//
	第69号 財産の取得について	//
	第70号 市道路線の廃止について	//
	第71号 専決処分の承認を求めることについて	承認
	第73号 令和5年度小松市公営企業会計決算の認定について	認定
	第74号 令和5年度小松市公営企業会計未処分利益剰余金の処分について	可決
市長提出追加議案 (4件)	第75号 工事請負契約について	//
	第76号 工事請負契約について	//
	第77号 教育委員会委員の任命について	同意
	第78号 公平委員会委員の選任について	//
議員提出議案 (1件)	第10号 ひきこもり支援に関する法整備を求める意見書	可決
その他案件 (1件)	議員の派遣について(市町村議会議員特別セミナー(参加))	//

■賛否が分かれた議案

○は賛成 ×は反対 退は退席 欠は欠席

議 案 名	会派自民										小松志士の会				自民党 こまつ		無会派					議決結果
	灰田 昌典	表 靖二	高野 哲郎	吉本 慎太郎	梅田 利和	南藤 陽一	岡山 晃宏	村中 洋	吉柴 文梧	宮西 健吉	中西 肇	濱口 淳也	木村 賢治	川崎 順次	吉村 範明	深田 博智	橋本 米子	片山 瞬次郎	木下 裕介	斎藤 和美	東 浩一	
条例案 (1件)	第65号 小松市国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
その他議案 (1件)	第72号 令和5年度小松市歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	認定
その他案件 (1件)	議員の派遣について (小松空港国際化推進石川県議会議員連盟 香港・タイ訪問団)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決

※新田寛之議長、東浩一副議長は小松市議会運営規約第4条に基づき、会派に所属していません。新田寛之議長は採決には加わりません。

12月 定例会のお知らせ

次の定例会は11月25日から12月23日までの29日間です。※詳細は議会ホームページをご覧ください。

11月25日(月)	10:00~	本会議	開会・市長説明
12月4日(水)~6日(金)	9:30~	本会議	一般質問
12日(木)	9:30~	委員会	予算決算常任委員会総括質疑
13日(金)	9:30~	委員会	各常任委員会(分科会)
16日(月)	13:30~	委員会	特別委員会
23日(月)	13:30~	本会議	委員長報告・採決・閉会

小松市イメージ
キャラクターカブッキー

読者の声をお寄せください

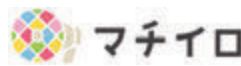
議会だよりをお読みいただいたご感想をお聞かせください。

右記QRコードを読み込んでいただき、「氏名」「連絡先」等必要事項を入力の上、お送りください。



議会だよりが

スマホで読める!



スマートフォン用広報紙配信アプリ「マチイロ」では、いつでもどこでも手軽に議会だよりを読むことができます。

「マチイロ」ダウンロードはこちらから▶



サポートネット

日時●11月16日(土)・12月21日(土)・1月18日(土)
9時~11時30分

専門家による無料相談会

会場●小松商工会議所

問い合わせ先: 担当 竹内 TEL 0761-22-9990



不動産鑑定士 澤矢 豊伸 TEL0761-21-1122	弁護士 杉本 昌之 TEL0761-24-3633	中小企業診断士 社会保険労務士 竹内 広幸 TEL0761-22-9990	司法書士 行政書士 田中 一生 TEL0761-48-7040	税理士 行政書士 谷口 勇一 TEL0761-76-5503	弁護士 中西 祐一 TEL076-256-5413	土地家屋調査士 行政書士 山崎 豊 TEL0761-20-3175
------------------------------------	---------------------------------	--	--	---	---------------------------------	--

- ◆法律
- ◆債権回収
- ◆多重債務
- ◆完済過払
- ◆税金
- ◆登記
- ◆不動産評価
- ◆人事・給与
- ◆会社設立
- ◆相続
- ◆事業承継
- ◆農地転用・開発行為
- ◆事業計画
- ◆公的年金 等の

ご相談をお気軽に【秘密厳守】
私たちが相談に応じます。